

# 人魚姫から学ぶ女性の生き方！

---

## 人魚姫の原作！

ディズニー映画の「リトルマーメイド」をご存知でしょうか？  
これは、アンデルセン童話の『人魚姫』を原作につくられています。

そしてこれは、魔女を悪役にしたハッピーエンドの物語。  
原作とは大違いの、まったく違う物語です。

では、原作はいったいどんな物語なのか？  
まずは、おおよその内容をご理解いただき、  
その上で、童話『人魚姫』を読み解いて見ましょう。



(ここから)



~~~~~  
人魚姫が、地上の王子に恋をします。王子と一緒にいたく  
なった人魚姫は、魔女の力を借りて人間の足を得ました。  
が、その代償として、美しい声を失うことになりました。

さらに、魔女からは「歩くたび、鋭いナイフで刺されるような  
痛みを感じなければならない！」と告げられました。

それを受け入れて、人魚姫は人間の姿になって王子の元  
へ行きました。

幸い、王子は人魚姫をたいへん気に入って、いつも自分の側に寄り添わせ「かわいい  
捨て子さん」と呼びかけ、子供をかわいがるように人魚姫を愛しました。

かわいらしい歩き方や軽やかな踊りに、誰もが感嘆しているその裏では、人魚姫は激  
痛に耐え忍んでいました。しかし、王子のそばにいられる幸せは、その激痛を耐える  
に十分なものでした。

王子は人魚姫を慈(いつく)しみました。が、それは恋愛の対象としてではなく、やがて  
王子の心を奪う王女が現れ、二人は愛し合うようになりました。

王子と結婚しなければ、人間の魂を得ることができず、死ぬ運命にある人魚姫。彼女にとって、愛する王子と、隣国の美しい王女の結婚は、王子を永遠に失うだけでなく、自らの命の終わりを意味するものでした。

二人の婚礼の夜、人魚姫はこれを最後と華麗に舞い続けます。家族を捨て、声を捨て、すべてを捨て去って、命を賭けた王子への愛を、ただひたすらこの舞に人魚姫はこめたのでした。

婚礼の夜が過ぎ、朝焼けが訪れると、人魚姫は死ぬことになります。しかしそれを免れるために、唯一の手段が残されていました。そしてその唯一の手段とは、魔女からもらったナイフで王子を殺すことです。そうすれば、人魚姫は再び人魚となって、生き長らえることができます。



人魚姫は眠る王子の枕元に立ち、ナイフを見つめました。そしてそのとき、王子が寝言で花嫁の名前を呼びました。それを聞き、人魚姫の手の中で一瞬ナイフがふるえます。

しかし、彼女は波間に向けてナイフを投げ捨て、最後に王子を見つめ、静かに海に身を投げたのでした。

~~~~~

(ここまで)

ディズニー映画の「リトルマーメイド」をご存知の方は、内容があまりにも違うことに驚かれたかもしれません。そして今ご紹介したのが、原作です。

昔話では、「願いごととその代償」というテーマがよく見られます。

そしてこの人魚姫でも、魔女と取り引きをしています。

それが、

- ・ 足を得る(メリット)
- ・ 自分の声を失う(デメリット) です。

あなたは、この取引についてどう思われるでしょうか。

人魚姫は自分の声という、オリジナルを捨てました。

そしてその代償として得たのは、足という別の世界です。  
そして、人魚姫は王子様のそばにいる立場を得ることができました。が、結局、それも一時的で、王子の後になることはできませんでした。

## 現代版 人魚姫

この話を聞いて、私はこう思いました。  
「これって、若い女の子への教訓だな！」っと。

たとえば、普通の女の子が、熱をあげている芸能人の男子のそばにいるには、人魚姫のような存在になるしかないと思いませんか？

(ここから) 現代版 人魚姫

~~~~~  
普通の生活を人魚の生活とすれば、芸能人の生活が足のある生活です。  
そのために、この女性は、普通の生活を捨てる必要があります。

さらに、彼は芸能人(王子という特権階級)です。  
そこで彼は、「僕のそばにいたかったら、余分なことは言わないでね！」と、従順な女性(余計な話をしない)であることを求めます。



彼女は浮かれていますから、それを受け入れます。

それで芸能人の彼は彼女を気に入り、いつも自分のそばにおき「かわいい捨て子さん(僕にとって都合のよい女でいれば、ここにいていいよ!)」と、呼びかけ、彼女を自分の都合通りに扱いました。

しかし彼女自身、自分の思い通りに過ごすことがゆるされず、いつも芸能人の彼が望むとおりの姿(都合のいい女)でいることに心を痛めていました。しかし、未だ芸能人の彼に熱をあげていた彼女は、それでもそばにいることで満足していました。

その後、彼は、本気で愛する女性を見つけました。

愛人である彼女は、結局、邪魔になったので手切れ金を渡されましたが、いまさら家に帰ることもできず、姿を消すことになったのです。

~~~~~

(ここまで)

人魚姫は自分の声と引き換えに足を得て、恋する人の世界の人となる。でも、そのために恋する人に思いを打ち明けることができなくなる。

声と足、このふたつがあってはじめて、  
人魚姫は自分の愛を王子に伝えることができるのに……

そして最後に、魔女から与えられた「王子の命と引き換えに救われる」というチャンスも捨て、その彼女の最後の愛情表現まで王子には届くことはありません。人魚姫は海の泡となるのです。

ここで学べる教訓は？

……………、いったいなんでしょう。

私は、

**「他人に合わせるために、自分を押し殺すとうまくいかないよ！」**

ということだと思います。

これって、当たり前のことですよ。

でも、これで苦労している人ってとても多いはずですよ。

実は、私は言葉遊びも好きなのですが、人魚姫のような人は言葉で考えても深い示唆があると思います。

たとえば、人魚姫のような人って、ふつう「優しい人」ですよ。

相手に合わせて行動する。



これって、自分はいへんですが、相手にとってはとても優しい行動です。  
そして自分は、本当の自分を押し殺しているからギャップに苦しむことになる。

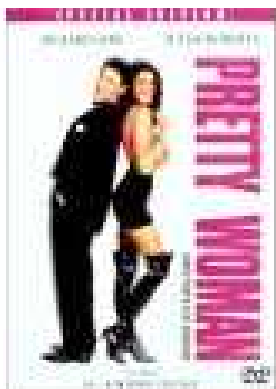
それを日本語では、

「優しい」 やさしい 「易しい」と表現されます。

詳しくは <http://www.sinsd.com/index.php?meigen> こちらを

もうお分かりでしょうが、「優しい」行動って「易しい」行動であり、誰にでもできる簡単なことなのです。

だからこそ、それがイケナイことだとわかるわけです。  
だって、「人に合わせる」って、誰にでも簡単にできる易しい行動ですから。  
そしてそれだからこそ、自分を苦しめることになるわけです。



ここまでの話で、今、ふっと思い出したのが「プリ  
ティー・ウーマン」、リチャード・ギアとジュリア・ロ  
バーツの映画です。

この映画って、典型的なシンデレラストーリーと  
言われていますが、でも、私は人魚姫のテーマも  
併せもっていると感じています。

(ここから)

~~~~~

大富豪の男に期限付きで買われた娼婦の女。  
彼女はどんどん磨かれ、一流の女性になっていったのだが…

彼女は彼とパーティーに出席するほど、女性として磨かれていった。  
しかしそれでも、彼と彼女はお互いに「娼婦」という壁を感じていた。  
それを感じた彼女は、彼の元をさっていった。

「このままお金をもらって、彼にとって都合のいい女でいてはダメ！」

そう思って、新たなる旅立ちを決意した彼女。  
一方で、彼女がいなくなっはじめて、彼女を心底愛していたことに気づいた彼。  
ふたりは結ばれるのであった。

~~~~~  
(ここまで)

どうでしょうか？

このようにテーマというか、教訓を知った上で映画を見ると、また違った楽しみ方ができると思います。そして**物語の裏にある神話の構造を知るとは、私たちが生きるうえでの憲法を知ることでもあります。**

そういった意味でも、神話や昔話を楽しんでみたらいかがでしょうか。

最後に、ある人のブログに書かれていたことを引用させていただきます。

(ここから)

~~~~~  
人魚姫の話は多くの移民が経験する心理的なシナリオに似ているという指摘がありました。ここでは王子は彼等の希望や夢、陸はアメリカを象徴します。失われた声は、言うまでもなく、彼等の故郷や言語(場合によっては権利)です。声と引き替えに、王子と結ばれる事を願って陸にあがる人魚たち。夢が成就できなければ泡にならなければならないという約束はないですし、王子もたった一人という訳でもありませんが、確かに、誰もが何かを代償にして、それでも得たいものがあって移住してくるのです。私もそんな移民の一人なんだ。とこんな話から自覚させられました。  
~~~~~

もう、3～4年前にコピペして、メモ帳に保存しておいた文章です。  
このように、物語は解釈の仕方がいろいろあります。そしてそのどれもがマチガイではありませんし、ある意味、自分に都合のよい解釈をするのもOKだと思います。  
要は、「神話や昔話っておもしろい！」ということで、今までと違った角度で物語や映画を楽しんでいただけたらと思います。

【追記】

神話や昔話には、私たちが“生き抜く”上でのヒントがたくさん描かれています。そうい

ったことを知りたい方は、  
以下 をご覧ください。

<http://www.sinsd.com/index.php?sinnri>

「そんなこと知っているよ！」  
そう反応する方は、ご覧にならないようお願いします。

他のレポートにもご興味のある方は、  
こちら をどうぞ。

<http://www.sinsd.com/index.php?nouhau>

鈴木邦昭